脚することは断じてない。吾反對に益々勞働組合の政治闘爭に對する明確なる積極的方針の確立を必要とする。而してこの主なる點は左の如くである

イ、勞働組合の政黨支持

我國の勞働組合が永く政黨的職分を保持し來つたこと及び勞働組合に於ける政黨的職分の分化過程が無産政黨の確立の過程に合流したことは、我等の既に見た所である。加之資本主義社會に於ける階級的闘爭の活動力はプロレタリアであるが、その端初的なものは勞働組合に於ける勞働者の團體的政治闘爭に存在する。從つて現段階に於て勞働階級が政治闘爭に進出するに當つては、勞働組合の政黨に對する團體的參加が絶對に必要である。之なくしては無産政黨の階級的發展性は失はれる。然るに今日では政黨に對する團體的加入の自由が禁壓せられてゐるので、勞働組合はその合法的方法として政黨に對する支持の形式をとる。從つて現段階に於ける勞働階級の政治的進出の最も有効にして階級的方針は、その團體的政治闘爭力を分散することなく行使するにあり、勞働組合の政黨支持の決定は實質的に團體的政治闘爭の一樣式として必要である。

ロ、「勞働組合の政治闘爭」の意義

現段階にあつては勞働組合の政治的進出は尚經濟闘爭を政治闘爭に結合する過程にあるが故に、その政治闘爭は尚組合主義的政治闘爭の範圍に止まつてゐる。だが資本主義社會に於ける階級闘爭を徹底的に遂行する主動力はプロレタリアであり、その端初的形態は勞働組合の政治闘爭の樣式の中に見出される。また勞働組合の政治闘爭はかゝる發展性を内包するが故によく現段階に於て共同戰線黨の主動力たり得、更にこの黨をして階級的に發展せしめる可能性をもつものである。それ故に勞働組合の政治闘爭は、現下に於ては勞働組合の政治的要求を代表する部分的政治闘爭であるにしてもその發展性は實に無産階級政治勢力の擴大強化の上に於て一定の歴史的役割をたすものである

我等はかゝる意義に於ける勞働組合の政治闘爭を重要視するが故に、勞働組合自體に於ける政治的意識の高揚と政治的訓練を今後に於て益々重要視さる。かゝる意義に於ける勞働組合の政治闘爭は共同戰線黨のそれと對立するものでなく相互に關聯するものであることは勿論である。特に我國の勞働組合運動は久しく政黨的職分を具備し來つたが故に、その無産政黨樹立後に於ける勞働組合の政治闘爭は急速にかゝる傾向をたどりつゝある。

ハ、黨と組合との關係

現段階にあつては支持政黨と勞働組合とは相互關係に立つことは上述の『勞働組合の政治運動』の意義よりして明白である。またこの相互關係の活用如何は兩者の政治闘爭の展開の上に重要性をもつ

我等は今日迄の勞働組合が政黨的職分を脱脚するの傾向を促進し同時に黨と組合との相互關係を確立して共同闘爭の實を擧げなければならない。而してその主なるものは黨と組合との組織上及び統制上の交錯混亂を絶對的に避けることであり、また一面に於ては兩者の常設的連絡機關の設置により、交互共同闘爭の實を擧げることである。例へば、組合政治部の確立、連絡委員會の設置、黨の日常闘爭を援助するために黨の副次的組織としての工場班乃至は組合班を活用すること等は當面の問題である

六、國際的諸運動に關する方針

我國資本主義の變則的發展の結果、我が組合運動は、先進社會運動國に比し極めて變則的狀態を惹起せしめて居る。我國の勞働組合運動の國際運動に對する態度はその代表的なものである。即ち我國の資本主義はその帝國主義的性質最も濃厚なるなかに常に帝國戰爭の危機に脅かされて、之に反抗する勞働大衆の意識は國際無産階級運動との提携の上に向けられて居る。かくの如く我國勞働階級の國際的進出に對する意識水準は比較的高揚せられてゐる反面に於て、その現實の勢力は尚微弱であることを否み得ないものがある。かゝる反面は國内勞働條件の向上を要求する國際勞働條約の如きが尚我國勞働組合の闘爭を犧牲しつゝあるに見ても明かであらう。斯くて日本ブルジョアジーは常に國際勞働條約の實施を極力回避すると共に、勞働運動の國際的進出に對しては妨害と阻止の態度を以て臨みつゝある。かゝる情勢は我國勞働階級の國際運動に對する態度の未だ固定してゐないことを物語ると共に、今日大衆的規模による國際的進出の可能性を見んことを意味する。從つて我國の勞働組合運動は諸外國のそれの如く、その政治的闘爭展開の過程に於て、第二、第三、その他の國際無産階級運動の系列に伍するの段階に到達してゐない。

よつて我等は今日の段階に於ては、國内における勞働組合運動の擴大強化、國内戰線の統一、植民地被壓迫民族の解放運動の支持、勞農ロシアに對する干渉反對、帝國主義戰爭の危機に對する闘爭の如き、個々の可能なる闘爭を通じて國際的提携を實質的に增進せしめる方針をとるものである

この態度は國際勞働會議に對する我同盟の態度に於ても變るものでない。由來國際勞働會議は現下の世界的反動期に於て有する役割に、その國際的規模に於ける勞資協調主義による勞働大衆の欺瞞以外の何物でもない。例へば之を我國の勞働條件と國際勞働條約の關係に見るも、勞働條約は何等の強制力を持たないことを理由として、國内に於ける勞働條件の改善に役立つべき條約の實施は拒否せられ僅かに國内勞働組合運動と無産階級の政治勢力の增大に應じて之を稱ひ取る外なき狀態にある。更に、我國支配階級は國内に於ける勞働者團結權を確認する勞働組合法の制定を拒否し乍ら勞働代表―右翼協調組合の八百長的選擧による欺瞞代表―を送るの矛盾をなしつゝある。かゝる國際勞働會議にとつては否認的態度をとつて國際的欺瞞に挑戰することを原則とする。只之に對して選擧權を行使することの許さるべき場合は右翼勢力の攪亂のための戰術として利用價値のあるときに限られ來つたが之すらも今後に於てはその利用の餘地を疑ひつゝある。

八、時局問題に對する我等の闘爭方針

既に『戰後第三期に於ける日本資本主義の矛盾』の擴大激化の分析に於て見たる如く、現下の日本資本主義は未曾有の失業と勞働不安を現出し、全勞働大衆の政治的の攻勢は將に開始せられんとして居る。かくて我國勞働組合運動はその凡てを擧げて一大闘爭を敢行すべき時局に當面して居る。而してその闘爭の主流をなすものは、産業合理化反對、失業反對、勞働立法獲得、勞働組合戰線の統一、農民運動との提携である。我等はその時局的闘爭に於ける特殊の重要性と主たる闘爭方針を見なければならない。

一、産業合理化反對運動

二、失業反對（資本家的産業合理化）

産業合理化が世界資本主義の相對的安定期に於ける資本の全線的攻勢の一形態であり、本質的には勞働者の大量的解雇と勞働賃銀の極度の低下を意味することは實に明かである。かゝる産業合理化によつて作り出された失業はその範圍は全産業の勞働者に及び、そのうちには多數の熟練勞働者を含み且つ復業の見込の完全にない點からいつて大戰前の普通の失業とは異なるものである。またこの合理化に於ける勞働の強度化―時間に從來より多くの勞働を搾る仕掛け―は、勞働者の極度の搾取と肉體的消耗をもたらす點に於て、普通の能率の增進と異つてゐる。かゝる資本家の未曾有の全線的攻勢と對抗するとき我國勞働組合運動の全戰線は餘りに短かい現狀にある。從つて從來の如き既存の組織線に沿ふ闘爭のみではこの資本家の總攻勢を反撥することは殆ど不可能である。だが我等は到る所に於ける未組織の廣範なる大衆が自然發生的にこの總攻勢に對抗して憤起する傾向のあるを見るとき我等は全線的激發の組織を以て政治的攻勢に轉ずべき條件の存するを見るのである。我が同盟は全勞働團體との共同闘爭により、職場代表者會議の戰術を以て、廣範な勞働大衆の間に不滿と闘爭を激發し、更に無産政黨との協力により果敢なる政治闘爭を遂行したければならない。

三、勞働立法獲得運動

我國資本主義の變則的發展はその過程に於て早くも反動性を發揮し、諸外國の如き社會政策乃至は勞働立法の制定をすら拒否して今日に至つてゐる。それが反動期に於ける我國勞働組合運動の發展性を阻害したことは既に述べた。かくて我國勞働組合運動は今日自らの政治闘爭によつて勞働立法就中勞働者團結權と罷業權の法認を内容とする勞働組合の獲得のために憤起せんとして居る。我同盟はこの闘爭とそれ自體に於て現下の未組織大衆に對する宣傳と組織擴大の好闘爭題目たるを認め且つ亦勞我組合運動の大衆的基礎確立のための必須條件と認めて大衆的政治闘爭を展開せんとす。

四、勞働組合戰線統一の運動

現下の諸情勢は勞働組合戰線の統一を要求すること切である、しかも資本主義的産業合理化に直面して闘爭化しつゝある大衆の壓力は茲には組合戰線統一を促しつゝある。我同盟の結成はかゝる壓力に更に拍車を加へた。我等の統一方針は究極に於て全國的産業別組合の確立とその大合同による單一的同盟體の結成であるが、現下の諸情勢に即して先づ共同闘爭體の組織を現實に實現せしめなければならない。我同盟は、産業合理化反對、失業反對、勞働組合法獲得の諸闘爭のための全國勞働組合